

Photo Magazine

no.0.1

世界フォトマガジン

S P M



目次

Portrait 花をあげる人(The person who hands flower)

text 感想

コーナー（今回は写真無し、趣旨説明）

weed 無機質の中の草

あとがき

はじめに

今回の写真は、
人はどういう姿が素敵か？ということを意識しながら、
撮っているポートレートです。

「未来に自分を置いて現在を見る」 上間正諭（ジャーナリスト）

人はなろうとする自分がいるからこそ、
そこを目指して生きていくと思います。
また、今、現在という時代をみたときに、
今を楽しく、という、今、というのがとても強い感じがします。
反対に、「現実は無理」とか「それは理想だ」とか、
未来に対して、どのくらい意識があるのか？
未来や理想がなければ、現実しか来ない。

どうあるべきか？は難しくてわからないけれど、
自分たちで、意識し、なりたい、人の姿、というものを撮ろうとした。

花をあげる人















感想

MODEL:Satou Masami say

今回、こういう作品撮りというもののモデルというのは初めてで、

この撮影のために、

何度も念入りに打ち合わせもして、

考えれば考えるほど、

難しくなっていました。

だから、あえてあまり深く考えず、

感覚で撮影に挑んだことをとても強く覚えています。

人の笑顔で地球を救うことはできないけど、

誰か一人を救うことや、

あったかい気持ちになってもらえたら、

それだけで、私の未来は少し明るくなる気がする。

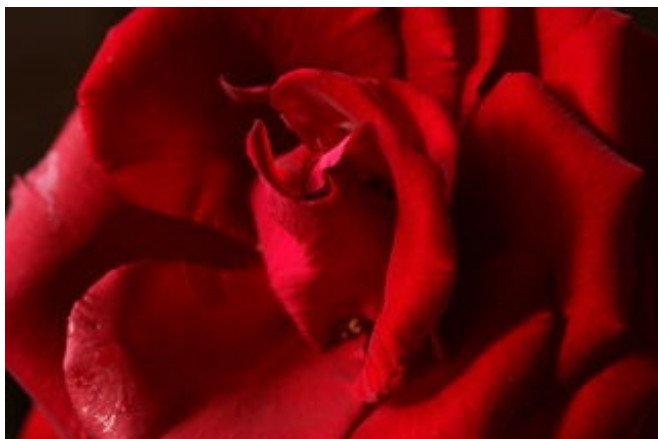
とても良い勉強になった撮影でした。

Photo:Ishikawa Akira Hair&MAKE:miko



ここで、この雑誌の趣旨を説明します。
一番は、写真は言葉に代わることができる存在、
というのが、一番のコンセプトです。
言葉が通じなくても、伝えられることがある。
それは日本から世界に、また世界から日本に、
ということが可能である、と思っています。

また、今、いろんな写真がありますが、
報道やドキュメンタリー、そういったジャンルの写真を紹介していければいいな、
と思っています。
そういう写真は欲求を満たすものではないから、
なかなか人の目に触れることも多くないけれど、
別の視点で見れば、そういうものに意識がいく人は、
自分、自分の国だけでなく、世界にも意識がいくだろうと思っています。
そういう意味で、読者が望む写真ではなくて、
写真家の個性というものをもっと自由にみせることのできるものになればいいなと思っています。
どういうコーナーをつくっていけるかわからないですが、
海外の人の写真とかも紹介していければ、と思っています。
まだ、試作の段階なんで、説明がうまくまとまってないですが、
よろしくお願いします。（石川 陽）



写真という存在位置について考えることがよくあります。
別に、時間が経つにつれて、
少し形が変わるとは思うけど、
今の自分の思う写真の存在位置。

自分は写真をやっていて、
絵画と、映像というのに意識する。
写真以外では。

芸術、報道、娯楽、問わないで、
単に伝えるという手段として。

絵画と写真を比べてみる。

絵画というのは、ほとんどが1点もの。

ということはその絵を所有した人が、

深く気に入れば、どんなに高価だろうが構わない。

反対に、写真というのは、

基本、コピーをする、そういう前提のもの。

何点もつくりすることができる。

ブロマイドや写真集みたいに、多くの人に流通させやすい。

簡単に言えば、

1人に100与えるか、

100人に1与えるか。

みたいなことです。

制作についても、同じようなことがいえます。

絵画で1枚を描くのに、何十年かけることもあるかもしれないけど、
一枚の写真をつくるのにそんなにかかりはしない。

一枚の価値は写真のほうが低い。
もし一つの作品として、
写真と絵画を同じ価値にしたいと思うなら、
それは一枚で勝負するのではなくて、
何枚も合わせて見せることによって、
絵画と同じレベルにいくと思う。
組や連や群にする。

ならば、そういう画像をつないでいった映像、
というのと、写真というの違いは？
今度は時空というものを意識する。
まず時間、写真というのは、
時間というのを上手く表現できない。
決まった時間を1枚に入れるから。
映像のほうが時間というものをわかりやすく表現できる。
ただ、反対に映像というのは、
時間というのが流れてしまう。
けれど、写真というのは時間というのをごまかせられる。
いいとこで切り取りができたり、流し撮りなどで時間を上手く入れることもできる。
また、空間で言えば、
映像のほうが窮屈になる。
内容ではなく、見る画面が一定となるから。
例えば、アニメと漫画。
漫画の画は自由に大きくしたり、小さくしたりできる。
けれど、アニメは画面というのが変らない。
これは時間の使い方も同じだけど。
そして付け加えて、制作についても、
映像の場合よりも写真のほうが小回りが利きやすい。
アドリブ（自己主張）とかも入れやすい。
別に映像を作ったことがないからわからないけれど、
映像はある程度、台本とかのルールに乗らなければいけない気がする。
写真はある程度、芯になるようなカットがあれば、
それにどれを合わせるかということで、見せることが可能。
上手く表現できないけど、
満点を目指して、つくっていく、
ではなくて、
なんでもつくってみよう、
というやり方もありになる。
チャレンジがしやすいという感じがする。





カメラ雑誌もいろいろあるので、
どういう風に撮ればいい、とかの写真の話よりも、
今の時代の視点を注目して、
いろんな写真の話題を提供できればいいかな、って思います。

今回のような写真論とか、
いろんな写真の紹介、解説とか、
今後どうしていくか、いまのところ、決まっていません。











あとがき

あとがき

今はまだ試作で、どうやって運営していこうか？
というシステムはできてないですが、いいものをつくっていけば、
道はできていく、と思ってやっています。
ただ、多くの人に参加・協力してもらえれば、
いろいろやっていけるとおもいます。
掲載する写真とかも、サンプルとか送ってくれば、
選考して、載せていきたいと思うので、
下記連絡先にメールで連絡ください。
別に、写真をメインでやっていますが、
それ以外の絵・グラフィックなどでもいいです。
ということで、試作品第1号でした。

製作者

石川 陽（写真家・フリー）

[URL:http://white.kakiko.com/sbs/](http://white.kakiko.com/sbs/)

MAIL:ishikawasun@earth.ocn.ne.jp